

平成 27 年度

事業所名 : グループホーム 千鳥苑

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500031		
法人名	社会福祉法人 寿水会		
事業所名	グループホーム 千鳥苑		
所在地	岩手県花巻市石鳥谷町大瀬川8-1-1		
自己評価作成日	平成 28 年 2 月 3 日	評価結果市町村受理日	平成28年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390500031-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390500031-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 28 年 2 月 17 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苑(施設)は、春には萌える新緑、夏には蝉しぐれ、秋には、錦繡の紅葉など四季の移ろいを存分に体感できる葛丸川溪流沿いにあり、四季の移り変わりが実感できます。大自然の環境の中、「温泉」利用を特徴としております。利用者には、散歩の際、行き交う地域の方々とは挨拶を交わし、交流しながら時には、花や野菜を頂いたり、ゆったりとした日々を過ごしております。また、家庭的な雰囲気の中で利用者様と触れ合い交流しながら、昔ながらの習慣の行事や行事食を取り入れております。地域の方々やボランティアの方々に支えられながら、明るく笑顔で過ごされております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当苑(ホーム)は葛丸川溪流沿いに立地しており「源泉かけ流し温泉」活用を特徴とし、同一法人の運営するケアハウスに隣接しており、行事や避難訓練など合同で実施している。「笑顔でゆったり憩う家」を理念に掲げ職員とともに散歩や近隣住民との触れ合いを楽しんでいる。苑も地域の一員として組織に加入し回覧版で情報を得て文化祭や敬老会へ参加し、時にはミニコミ誌に苑の情報を発信するなど地域住民との交流が自然体で行われている。ケアハウスと共に地域防災組織に加入し無線機も備え、地域防災協力員の協力を得て訓練を行い、また災害緊急時に備えて備もあり、災害対策に万全を期している。利用者は徐々に機能が低下してきていることから職員の更なる介護力の向上を図り利用者の安全・安心・笑顔を目指して前進し続けている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム 千鳥苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔でゆったり憩う家」の理念を掲げ提示し、内容を吟味し確認し合っております。家庭的な雰囲気の中、ゆったりと憩え、温泉につかりながら和んで頂けるような雰囲気作りに努めております。	基本理念「和顔愛護」を基に職員と共に現状を踏まえて「笑顔でゆったり憩う家」を掲げている。利用者の笑顔と安心感のある表情が多く見られるよう、日々振り返りをしながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来るだけ地域の行事に参加するよう努めております。出席すると入所前の知り合いの方々に出会い声を掛けられることが増えてきています。天候や足場が良い時は、出来るだけ散歩に出掛け、すれ違う方と挨拶を交わし、交流の場が持たれるよう努めております。	町内会に加入し、苑の広報を地域に回覧している。運動会・敬老会・子供神輿訪問など集落行事へも参加しており、今年は認知症講座に住民や子どもが参加し、地域との相互交流に深まりを見せている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当苑にて、認知症サポーター講習を開催し幅広い世代の多くの方々に参加して頂き「見て、聞いて、知って頂く」機会を設けているところ です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通し利用者の状態、事業の活動状況を報告し理解が得られるように努めております。家族との関わり、認知症への理解、徘徊、地域との関わりについて意見を頂き、サービス向上に繋げるよう努めているところ です。	会議では、事業の状況を説明しながら情報の交換をしている。時には消防署員を講師に招き、AEDや避難対策をテーマに開催しているが会議が形式的になりがちで家族の参加が少ないこともあるとしている。	会議が形式的に陥りやすく家族代表の出席が少ないこともあるが、他の地域代表やゲストの参加呼びかけ、また家族が参加しやすい時期・内容などの工夫を更に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の方に生活保護受給者の相談やグループホームの運営について相談することもあり協力を頂いております。	市の担当者とは、生活保護受給利用者もいることから事務的な助言・指導・相談も含めて連携が保たれている。地域包括センター職員が運営推進委員として会議に出席し苑の状況をつぶさに把握し、協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内に宣言を掲示し、身体拘束となる行為の資料を回覧し、各利用者のケアの振り返りや見直しを行い、職員間で意見交換を行っております。	苑内に宣言を掲示し朝のミーティングで確認している。見守り・気づきを優先し命令や静止言葉には特に気を配り「伺いを立てる」言葉を共有して支援に取り組んでいる。転倒不安な利用者には夜間センサーマットを併用しながら拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	支援(サービス)を実施していく上で、身体拘束にあたる行為について確認し合い検討しながら支援内容に工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学ぶと共に、現に、被後見人を受け入れております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご家族やご本人に説明した後、疑問点やお尋ねしたいことをお聞きし、納得した上での契約と成っております。改定時等も説明、納得された上で実施しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情申出窓口等の説明を行っております。ご家族の来苑時や電話連絡、サービス計画書の説明時を利用しながらご家族の意見や要望をお尋ねする機会を設け、出された意見等は、反映するよう努めております。	利用者は日々の暮らしの会話から、家族は面会時や電話・サービス計画見直し時に意見・要望を聞いている。通院介助や室内環境(室温管理寒さ対策)に対する要望などがあり運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングと職員会議を通して、業務が円滑に遂行できるように気づきや意見、思いを活かせる環境作りに努めています。	ミーティングや連絡ノート、職員会議などを通じて職員と意見や提案を共有し話易い関係を築いている。また管理者は職員が平穏な心で支援できるように夫々の個性や生活・家庭環境を考慮し、業務の見直しをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり職員が向上心を持って働けるよう意見を聞き助言しています。給与は規定による。労働時間は、規定の範囲内で希望も聞いております。働きやすい環境になるよう意見を取り入れ整えるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は、他施設で研修を受ける機会を持っています。他の職員は、資格や働いた年数に応じた研修を受けています。研修内容は、全職員に周知するように努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、岩手県グループホームの協会定例会に参加し、他施設職員と交流を図っています。交換研修も行いサービス向上にも努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接で心身の状態を把握し、本人の希望や要望を叶えるようコミュニケーションを取りながら利用者に受けられるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接で聞き取りし、家族等が困っていることを理解し、共に生活していきながら苑ではどのような支援ができるか家族とも話し合っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、本人の思いやご家族の考え、意向、要望をお尋ねし、ケアの方針を決めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の場をリビング(ホール)とし、皆が揃って会話をする中で昔のをお尋ねしたり、「何か、お手伝いすることないですか」と尋ねて下さる方、気がついて手伝って下さる方もいて利用者へ支えられております。和むような話題作りしながら信頼関係の構築にも努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にできるだけ多くの方が来苑して頂けるように促しております。「共に支える」を念頭に連携を図っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人が面会に来られた時は、居室でゆったりとお話しして頂いております。来苑された時は、利用者が大変満足した様子であり、ご家族にも報告し、続けて頂いております。馴染みの美容室にも継続利用されるよう支援しております。	長期間の利用や機能の低下とともに、親族以外の馴染み関係は薄くなりがちである。なじみの美容室の利用や集落行事、祭りでの出会いがある他、紅葉狩りなどにも継続して参加が出来るよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の希望など尊重しながら他の利用者とのリビング(ホール)で過ごせるように支援に努めております。職員は、お互い良好な関係が保たれる支援に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されても、困りごとがありましたら、いつでも、ご連絡下さるようお願いしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者やゆつくり話し合える夜勤、入浴、昼食時等を利用し、思いや意向をお尋ねするよう努めております。一日3回の申し送り時や生活日誌、連絡ノートを利用して全ての職員が情報を共有し、ケアカンファレンスでは、議題に取り上げ検討しております。	一人ひとりの思いは入浴時や夜間の個室訪問時、食事の機会などに把握しており、連絡ノートを通して共有している。息子に会いたいとか、俺の山を見たいなど利用者の思いや希望を実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にお尋ねしますが、生活していく上で把握できていなかったことについては、家族等に面会時を通して幅広く情報を得るようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「生活日誌」等に一日の経過を細やかに記録し、変化を見逃さないよう努めると共に、出来ることは継続して行って頂いております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族に、ケアについて説明した上でご希望、要望をお伺いし、ケアプランに役立てております。看護師、介護職員間で出された意見を反映し、計画作成の見直しに役立てております。	介護計画は本人・家族や職員間で話し合い、利用者の現状に即して楽しみや、役割等も明記して作成している。3ヶ月に1回モニタリングを行っているが、状況の変化に対応して、現状に即した見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の毎日の生活を生活日誌等に記録し、申し送りで情報共有し状態に応じて見直しし、サービス内容の改善に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院は、ご家族にお願いしておりますが、都合が悪い時は職員が通院支援を行っております。ご家族の要望でレイス治療院による全身マッサージを実施している方もおります。必要に応じて、日常生活用品の購入や金銭管理も代行して行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の敬老会、運動会、文化祭にも参加させて頂いております。地域の方々からのお誘いの声も聞かれ、お誘いに参加できるように健康に留意しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を継続されている方や苑に通院介助をお願いする方もおりますが、家族の同意を得て通院先を決定しております。通院時には、バイタル記録、行動記録を提供し診療の参考にして頂いております。	従来からのかかりつけ医診療で家族同行を基本としているが、長期利用に伴い職員同行が多くなっている。受診時は日常の体調管理記録を参考として持参している。緊急時に備え協力医との連携も保たれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の毎日のバイタルチェック、一般状態観察を怠らず、変化時は、看護師に相談し指示を仰いでおります。かかりつけ医とも連携を取り、必要に応じて受診し、ご家族への連絡も必ず行うようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、入院先への情報提供と入院後の医療相談室の方や家族を通じて相談や調整を行っております。普段からの利用者の通院同行を通して医療面の相談も実施しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前ターミナルを経験しておりますが、協力医との連携、看護職員の確保、勤務体制上の問題もあり、基本的に病院を紹介することとしており、利用者、家族に説明し理解を得ております。	重度化や終末期の対応については、職員体制や協力医との連携上、困難なことを早期に伝え理解を得ている。利用者の機能低下とともに家族の心配もあり、今後職員の心構えや方針などについても更に話し合いながら、夜間・急変時に備えたいとしている。	住み慣れた苑での終末期を迎えたい利用者・家族の希望も伺える。現体制では困難としているが、職員の介護力の向上とともに家族・医療・関係機関と連携をとり更に話し合うことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回消防署立会いの避難訓練で、人口呼吸訓練、AEDの使い方など心肺蘇生法を習得し万が一に備えております。鼻血の止血方法、意識消失の対応方法、誤嚥性肺炎防止に努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定し、通常の職員体制で年2回実施。全職員が、参加できるように配慮し、訓練の際には地域防災協力員や近隣の住民の方にも協力して頂いております。	地域防災協力や近隣住民の協力体制が整っており、隣接のケアハウスと合同で夜間想定も含めた火災避難訓練を実施している。3月には振興センターと無線機設置予定がある。ゲリラ豪雨の警戒警報など経験を踏まえ、水・食料などの備蓄もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	着衣失行時には、自室にて声掛け交換して頂き、自尊心を傷つけないようにしております。利用者への声掛けや談笑時の言葉づかいについても丁寧に話されるよう職員間で注意し合い声掛けし合うように努めております。	利用者の尊厳を肝に命じ、プライドを傷つけない言葉づかい態度での支援を心がけている。入浴・排泄・衣服の着脱では特に羞恥心に留意している。広報紙等の掲載や写真の展示、記録の取り扱いにも気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の目線に立って声掛けをし、その人に合ったケアの提供に努め無理強いないよう、本人の意思に添ったケアに努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事とおやつ以外は自分の好きな場所で生活して頂いております。自室でテレビを見られる方もおりますし、ホールで過ごす利用者もおります。行事やレクリエーションへの参加は、ご自身の意向に任せております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候や気温に合わせて職員と一緒に服を選ぶこともあります。重ね着や着衣失行をさりげなく直して頂いております。理髪を町内の理髪店にお願いしておりますが、髪長さ等もお尋ねしながら行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きと、「いただきます」の挨拶、茶碗拭き、下膳等それぞれの役割を持って行っております。食材には、行事食、季節の旬を取り入れ、食事中には、皆さんとゆったりとお話ししながらの食事時間としております。	職員が交代で調理し、ミキサー食・おかゆなど咀嚼力に合わせて対応している。利用者と共に、食事の準備や後片付けを行い、会話をしながら食卓を囲んでいる。季節毎の行事食で、五感でも味わえる配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	義歯の無い方、自歯欠損の方に刻み食、ミキサー食等で提供しております。水分補給は見守りを行い、不足している時は飲み易いもの、好きな飲みものに替えて提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には、声掛けのみの支援を行い、出来ない部分のみ支援しております。義歯洗浄も就寝前に必ず行っております。歯科健診に職員同行し、治療に結びつけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、利用者の行動パターン、個々の排泄リズム、表情を汲み取ることでトイレでの排泄回数も増え、オムツ使用減にもつながっております。	自力でトイレで排泄することは「快適な生活の提供」である。利用者の排泄リズムを把握し表情やしぐさに留意して誘導し、失敗をなくすよう心がけている。オムツ使用量も少なくなり現在3名が排泄の自立をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロール表に基づき排便管理し、また、便秘対策として毎日の乳製品の摂り入れ、腹部マッサージや運動への働きかけを行っております。個別に水分補給にも取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、その日の体調や気持ち、意向に柔軟に対応し、温泉の效能をお話しし、コミュニケーションを図りながら勧めております。	入浴は体調や意向を考慮し柔軟に対応しており週2回程度の頻度となっている。入浴を拒否される時でも、「足湯だけでも」の声掛けから全身入浴になる場合もあり、温泉の特徴を活かした支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせて無理強くない入眠支援に努め、就寝の際は、更衣介助を実施し安心して休めるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に、薬内容に変更があったり追加された時には状態把握に努め、必要に応じて医師に報告し調整して頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを通じて、個々に役割を持って頂いております。行事への参加や大好きな歌を皆で歌い、リフレッシュを図っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意向をお聞きしながら外出支援を行っております。四季の変化を感じて頂くと共にリフレッシュの機会でもありますし、筋力低下防止の為にも外出し、散歩に出掛けるように努めております。隣接するケアハウスにも出掛け、一緒に行事も楽しまれております。地域住民の方々からご協力頂きながら、外出の範囲を広げて行こうと思っております。	天候と利用者の雰囲気を見ながら日光浴と森林浴を兼ね日常的に戸外の散歩をし近隣住民と挨拶や触れ合いを楽しんでいる。隣接のケアハウスと交流する機会も多い。介護度の高い人は通院ついでにドライブで気分転換ができるような支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いの所持は、認めておりませんので、物品が不足した時は、ご家族に連絡して補充して頂くか、立て替えて購入することもあります。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りが困難な方が多く、ご本人様の希望時には、取次ぎ支援を行っております。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活導線の環境整備に努めると共に廊下、食堂兼ロビー、トイレ、行事用広場のスペースは、広く、天窓からは、明るい陽射しが入るように成っております。食堂兼ロビー、玄関には頂いた花を飾り、その続きの和室には炬燵とテレビを備えております。	共用空間は天窓から自然光が差し込み食事準備の音・匂いを感じられる場所にテーブル・テレビがある。壁面には、利用者の制作したひな祭りの貼り絵などがありホットな雰囲気が出されている。洗面所・トイレ・浴室も安全に衛生的な配慮がされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者や交流したり、互いの居室で過ごせるよう座席等の配慮に努めております。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人そしてご家族と相談しながら、愛用されていたつろぎの椅子やテーブル、座卓、タンス、テレビ、日記等を持ち込むなどして居心地良く過ごして頂いております。	居室はベッドや洗面所、クローゼットが備え付けで他は夫々の思いが活かされた佇まいである。初月給で購入したタンス・使いなれた机・家族の写真などが置かれ、入口には目印があり、自室と分る配慮がされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分からなくなる方には、目印や名前を居室入口前に貼ったり写真を貼ったりの工夫をし、ご自身で行き来が行えるよう声掛けの継続支援を行っております。			